



I・TECソリューションズが寄付

創業50周年を記念してIT関連企業のI・TECソリューションズ(苫小牧市)は9月4日、町に図書購入費50万円を寄付しました。

同社は、昭和45年7月31日に設立。総合行政システムや港湾・運送業など幅広い業務システムの設計や開発、インフラ整備などを行っています。地域に支えられて会社が存続していると、寄付をおこないました。

同社の住岡弘社長は「地域あつての会社です。教育環境の整備の一助にしてください」と、宮坂町長に目録を手渡しました。

国際ソロプチミストが寄付

国際ソロプチミスト苫小牧はまなす(井尻和美会長)の4人が9月4日、町に3万円を寄付しました。

国際ソロプチミストは、地域社会などで女性と女児の生活を向上させるための奉仕活動組織。ラテン語のソロ(姉妹)とオプティマ(最良)の造語で、「女性にとって最良のもの」を意味します。

脇本真美さん、青山晴美さん、炭谷尚子さん、矢部スエさんの4人が町役場を訪れ、宮坂町長に「地域に役立ててください」と目録を贈りました。



厚南中学校で初の小中一貫教育の授業



上厚真小学校(井内宏磨校長)の6年生16人が9月11日、厚南中学校で初めての小中一貫教育を前提にした一日体験授業を行いました。

学校の雰囲気に慣れてもらうのが目的で、児童と先生が厚南中学校に出向き、給食を挟んで6時間の授業が行われました。

この日は、体育の授業のみ中学校の担当教諭が指導し、国語などの一般科目は上厚真小学校の先生が授業を行いました。

体育館に集まった児童たちは、走高跳について勉強。準備体操後にマットを準備し、助走のしかたや踏み切りのタイミングなどのコツを教えてもらいながら、70cmの高さを次々に飛び越えました。上厚真小学校では、今後も中学校での体験授業を実施するそうです。

今年度の町戦没者追悼式が8月28日、総合福祉センターで開かれ、遺族や来賓など約60人は、黙とうをささげて献花し、戦禍の犠牲になった故人をしのぶと共に恒久平和を誓いました。

宮坂町長は「間もなく、胆振東部地震から2年。平和の尊さ平和を堅持する知恵を次の世代に継承し、郷土・厚真の輝きを再生するために、町民と共に災禍を乗り越えることを誓います」と式辞。町遺族会の加勢敏和会長は「世代を越えて戦争への警鐘を継続し、平和と我が国の伝統、文化、教育を守り続けていくことを決意します」と追悼の言葉を述べました。

恒久平和を誓う 戦没者追悼式



感謝状を贈呈

あつまクリニック顧問の小林孝さん(72歳)

平成4年7月の開院以来、長年にわたって地域医療の向上に貢献したとして、町と町教育委員会は9月4日、町嘱託医などを退任するあつまクリニック顧問の小林孝さんに感謝状を贈りました。

小林さんは、平成5年4月に町と教育委員会から嘱託医と学校医に委嘱されたほか、平成18年4月からは町の産業医として尽力。平成17年12月には、個人開業医から医療法人への変更に伴い理事長となり、平成25年10月には顧問に就任しました。令和2年1月に札幌市に転出しましたが、現在も月3回程度、勤務医として診察を行っています。



町企業研修型地域おこし協力隊 川邊 晃さん(31歳)に委嘱状交付



町は9月4日、町企業研修型地域おこし協力隊の川邊晃さんに委嘱状を交付しました。

川邊さんは大阪市出身で、これまでデザインやシステム系のITベンチャーを起業してきました。町との関係人口増加に向けた事業や自治体コンサルタント事業などを行い、7月31日に一般社団法人として設立した「OpenTown厚真」(表町)で研修し、知見を深めます。

宮坂町長から委嘱状を受けた川邊さんは「地域の活性化に結びつくように努力します」と抱負を語りました。任期は、1年更新で最長3年間です。

町企業研修型地域おこし協力隊は、町内に所在する事業者が新たに始める事業や、起業して5年以内の事業者の下で業務を行いながら自らのスキルアップや地域の活性化などを学ぶ制度です。